

## 平成 31 年度都立看護専門学校社会人入学試験小論文課題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

「やりがい」というのは、変な言葉である。たとえば、食べがいがある、といえ、それは簡単には食べられないもの、ボリュームのあるものを示す。「やりがい」に似た言葉で、「手応え」というものもある。これも同じで、簡単にはできない、少し抵抗を感じる時に使う。

手応えのある仕事というのは、簡単に終わらない、ちょっとした苦労がある仕事のことである。同様に、やりがいのある仕事も、本来の意味は、やはり少々苦労が伴う仕事のことだ。

しかし、たとえば、自分が能力不足だったり、準備不足だったり、失敗をしてしまったり、計画が甘くて予定どおり進まなかったり、そんなことで苦労を強いられるからといって、それで「やりがいのある仕事」になった、とは言わないだろう。

そう勘違いをしている人もいる。最初は怠けておいて、〆切間際で徹夜をして、なんとかぎりぎり間に合わせる。そういうもので仕事の手応えを感じ、達成感や満足感を味わう、という人が実際にいるのだ。TV番組のヤラセのようなものである。

本当に素晴らしい仕事というのは、最初からコンスタントに作業を進め、余裕を持って終わる、そういう「手応えのない」手順で完成されるものである。この方が仕上がりが良い、綺麗な仕事になる。

ただ、こういう仕事ができるようになるためには、沢山の失敗をして、自分の知識なり技なりを蓄積し、誠実に精確に物事を進める姿勢を維持しなければならない。さらに、時間に余裕があるときには、勉強をして、新しいものを取り入れ、これはなにかに活かせないか、ここはもう少し改善できないか、と常に自分の仕事を洗練させようとしていなければならない。この自己鍛錬にこそ、手応えがあり、やりがいがあるのだ。

出典：森博嗣著（2013）「やりがいのある仕事」という幻想  
株式会社朝日新聞出版

### （設問）

著者が伝えたいことを簡潔に要約した上で、あなたにとっての「やりがいのある仕事」について、自身の経験を踏まえて 1,200 字程度で述べなさい。